

食料・農業・農村政策審議会企画部会 議事概要

【日時】 令和4年1月24日（月）15:30～17:30

【場所】 農林水産省第2特別会議室

【出席委員】 大橋企画部会長、浅井委員、井上委員、大津委員、川上委員、佐藤委員、高槻委員、中家委員、林委員、二村委員、堀切委員、宮島委員、三輪委員、山波委員、柚木委員（欠席：磯崎委員）

【概要】

- ・ 食料・農業・農村白書構成（案）（併せて、令和2年度実施施策に係る政策評価の概要（農政分野）を説明）を議題に開催。主な発言は以下のとおり。

食料・農業・農村白書構成（案）について

（中家委員）

- ・ 白書については、作るのが目的ではなく、農業・農村や農政の状況をどのように活かしていくかが重要である。農政推進の手段の一つとして、政策の方向付けも具体的に示していただきたい。
- ・ トピックスはこれで良い。ニッポンフードシフトは、国民運動として非常に重要であり、継続して取り組む必要がある。
- ・ 特集のセンサスの分析も重要なテーマである。例えば、農地や就業者等の基盤が弱くなっているイメージがあるが、産出額は減っていないなかで、1戸当たりでみれば所得・収入が確保できているケースもある。農業・農村の重要性や未来が明るいというイメージを感じられるようにしてほしい。

（柚木委員）

- ・ 全体の構成、トピックスは妥当である。多様な農業の関わりは基本計画でも記載しており、全国各地の動向をしっかりと示してほしい。
- ・ 特集について、2015年との比較では農業者や農地が減少している一方、創意工夫しながら取り組んでいる農業者の例もあるので、個別の努力が見えるよう地域類型別の、規模、経営形態、売上高等の詳細なデータの分析に期待している。
- ・ みどりの食料システム戦略のKPIが示される中、ゼロエミッション、化学肥料低減、有機農業拡大等の野心的な目標について農村現場では戸惑いもあるため、戦略が示されて1年経過する中で踏み込んだ内容が盛り込まれることを期待している。
- ・ 第4章の新型コロナウイルス感染症対応については、前回の特集でもあったが、今回

も感染拡大が進行中のため、引き続きこれまでの状況や影響、新しい動きを盛り込むことが重要である。

(二村委員)

- ・みどりの食料システム戦略は関心の高いテーマのため総合的に書き込んでほしい。生産・流通・消費の現場にも関係するため、課題が現場にわかるように期待している。
- ・みどりの食料戦略システムは、持続的な農業生産に関係が深く第2章が適当ではないかと思っているが、第1章の食料の安定供給に入っているのは何故か？
- ・URL、QRコードについては積極的に実施してほしい。農水省のHPは数年前から分かりやすくなっており、白書を起点に必要な情報にたどり着けることは有効である。

(堀切委員)

- ・「国民各層の関心が一層高まるよう」という作成方針通り、図表・写真・グラフを活用いただきたい。白書は近づきがたいとのイメージがあったが、昨年度の白書は図表・グラフが多く読みやすかった。より分かりやすく、小学生からお年寄りまでわかりやすい白書を作成いただきたい。昨年度の白書を読んだ人や農業者、小学生等に白書への意見を聞いたものがあれば参考にすべき。
- ・食料産業における動向、トピックスとして、原材料価格、物流コスト、原油価格とあらゆるものがコストアップの要因となっている現状を理解してもらえたらと思っている。FAOの発表では平均125%前年から食料価格が上がっている一方、食品産業でそこまで価格に反映できない分は、原材料生産者や加工、流通業者等食品産業が背負っている。特に、日本の食料品価格は欧米に比べて非常に厳しい状況であり、業界の発展を阻害している。食料自給率が4割に満たない中、食料を輸入するにしても価格に反映できないと買い負けしてしまうため、食料安全保障を含め政治的な観点からの検討が必要である。トピックスでは食料原材料価格やコストの上昇についても取り上げていただきたい。

(宮島委員)

- ・白書におけるWebやQRコードの工夫は素晴らしいが白書を読むハードルは高い。学生等白書を見ようとする人のカテゴリーそれぞれへの誘導はよくできているが、農業に興味がないなど、白書を見ない人への誘導は難しい。そのような人には話題となっているBUZZ MAFF等いろいろな形でのトライをしていただきたい。
- ・一般の関心は、たった今は新型コロナウイルス感染症が中心。冒頭に新型コロナウイ

ルス感染症としなくても良いが、それぞれの分野広範囲に新型コロナウイルス感染症は影響を与えているため、どの章であってもその影響と対応をしっかりと前に出して記載いただきたい。

- ・第4章で東日本大震災が最初に来るのはそれを忘れないようにということだろうが、新型コロナウイルス感染症が同章の最後にくるのは違和感がある。
- ・これまでのテーマが今年どうなっているかも読みたいところ。農業DXについては、紙をオンラインにする意識は高まっているが、DXによる仕事のやり方等のベース改善は進んでいないことを意識して欲しい。
- ・女性農業者については、一昨年の特集で生まれ、昨年もフォローしてもらったが、農業の課題として継続して記載していただきたい。
- ・トピックスにおいては、ニッポンフードシフトが農林水産省でどれくらい重要なのが分からない。端緒だが、国民運動ということであればトピックスの中でも前の方に記載しないとメディアに認識してもらえず、白書でも埋もれてしまうのではないか。
- ・政策評価は、KPIの達成度をしっかりと見ていくということだと思うが、国民の関心が高い分野に関しては、より詳細な説明やデータがあるとありがたい。

(大津委員)

- ・みどりの食料システム戦略について、トピックスでしっかり記載するのは理解するものの、現場の農業者には、農政の方針転換に対する不安があるのは事実である。これまでの品質向上、高付加価値化といった農政を総括しつつ、時代の流れとして地球温暖化防止に取り組むことが必須であり、それを今後どのように進めていくのかを農業現場に伝えることが重要である。
- ・子育て支援施策が始まったことは喜ばしいが、実際のニーズとのずれを感じている。農業と子育ての両立に悩んでいるケースは「ターン」ターン新規就農者に多く見られる傾向があり、農業も人手不足、育児面でも頼れる人が近くにいないという課題を抱えている。新型コロナウイルス感染症で密を避け、生きることを実感する暮らしや自然豊かな農村での子育てに対するニーズが増えていることから、実際に課題を抱えている人のセグメントを明らかにした施策が求められる。例えば、新規就農する際に地域になじみながら子育てができるようなネットワークがあれば、移住定住促進につながるのではないかな。また、農家の出生率にも興味がある。
- ・政策評価は成績表でなく、KPIを達成していないから良くないというのではない。その原因を明らかにすることが重要であると現場に伝われば良い。

(山波委員)

- ・中身は良いと思うので、関心がない方に、関心を持って見て理解いただくにはどうすべきかが重要である。農水省、審議会で知恵を使いたい。
- ・みどりの食料システム戦略に農業者は注目している。概要は出ているが、中身はち密になっていないため、生産現場では具体的にどうしたらいいのかと危惧している。
- ・トピックスの「多様な農業の関わり」の中で、半農半Xについては人を指していると思うが、生産組織、企業等の事業体が農業を半分、農業以外を半分行う形もあり、日本の農業を支えているのではないかと。地方に行けば半分農業以外をやっている例はたくさんあるので参考にしてもらいたい。
- ・分野9指標⑯「担い手の米の生産コストにおける生産資材費と労働費」について、生産資材費が高騰したと分析しているが、米価が下落する中、どうしたら生産者が持続可能な農業ができるかを一緒に考えて欲しい。

(平野情報分析室長)

- ・白書の活用について、分かりやすく、更に工夫すべき、特に堀切委員からは白書に接した人の意見を聴くべきとの指摘をいただいた。大学や都道府県等に説明会を行った際に御意見をいただくようにしており、意見を踏まえて活用しやすい白書となるように取り組みたい。
- ・柚木委員より、特集では、全国一律でなく品目・地域別に詳細な分析を行うよう指摘をいただいた。センサスは都道府県別、営農類型別にデータの分析が可能なので、5年前、10年前からの変化を追っていききたい。
- ・宮島委員から、一般の読者から関心を引くための白書の広報の視点と、各分野で新型コロナウイルス感染症を意識して記述することについて、さらに柚木委員からもコロナの影響について指摘をいただいたので、これを踏まえて骨子案の作成等作業を進めたい。また、宮島委員から指摘のあった女性農業者のようなテーマのフォローも盛り込んでいきたい。また、ニッポンフードシフト、4章の中での新型コロナウイルス感染症の記載の順番についても意見をいただいたので、本文を書き上げる中で、どの順番が適切かを検討してまいりたい。
- ・中家委員から、白書において政策の方向付けを記載すべきとの指摘をいただいた。政策の方向付けは5年に一度の基本計画で行っており、新たな方向付けを白書で行うのは荷が重い。データを整理する中で関連するものは簡潔に紹介していきたい。

(常葉広報評価課長)

- ・政策評価について関心が高いものは、より詳細な説明があるとありがたいという話があったが、例えば、米の生産コストは、白書の中でどのような記述にすると良いか考えたい。
- ・委員御指摘のとおり、我々も政策評価結果を成績表としては考えていないが、そのような印象を持たれないように、政策評価は政策の発展に向けたサイクルの一つとして取り組んでいく必要があると考えている。

(窪山参事官（デジタル戦略）)

- ・宮島委員指摘の農業 DX については、単に紙をオンライン化するだけでなく、申請項目や添付書類の抜本見直しを行う。DX により申請や審査の手間を省いて、農業者は自らの経営に集中、自治体等の職員は農業振興や担い手のサポートに注力できる環境を作るものである。

(秋葉環境バイオマス政策課長)

- ・みどりの食料システム戦略を第 1 章に置いているのは、持続的な食料システムを構築していくという意味。資材などの調達から、農業、食品産業や食品ロス、消費、国際交渉等も含めて関わることから、第 1 章に記載したもの。
- ・大津委員・山波委員より生産現場で不安があるという意見もいただいたが、戦略の説明、予算・税制について現場で話し合いをしているところ。また、戦略の理念や関係者の役割・支援策を盛り込んだ法案を検討しているところ。

(平野情報分析室長)

- ・食料価格上昇の記載については、第 1 章になろうかと思うが、図表等を活用しながら記載していきたい。

(松尾経営局審議官)

- ・宮島委員、大津委員より女性農業者、子育て支援の関係の指摘をいただいた。女性農業者についてもできるだけ記載し、子育て支援については予算も措置しており、そうした実態も含めて工夫したい。

(林委員)

- ・トピックスの項目については特に意見はないが、昨年度白書のトピックスとの連続性を意識した記載をお願いしたい。例えば、輸出では輸出・国際局の設置や省庁連携が

記載されているので、その進展を書くべきではないか。DX のトピックスについては行政手続のオンライン化だけでなく、WAGRI によるデータ活用やブロックチェーンを活用した流通トレーサビリティの記載をお願いしたい。

- ・特集は、第1章から第4章の問題の横串を刺すものと理解しており、特集のテーマとして「農業構造の変化」を取り上げるのは非常に良いと思う。遊休農地や荒廃農地は増えていることや、原材料・燃料などコストの高騰を価格に転換できていないという流通の問題も取り上げてほしい。また、ミクロのデータ分析として、農家の手取りが増えているのか、担い手別、年代、男女別の変化がわかるような統計値や分析を記載していただきたい。
- ・1章のタイトルについて、「食料の安定供給の確保」というタイトルだが、内容が安定供給にとどまらないため、「食料供給の国際競争力の確保」が良いのではないか。
- ・1章の中の「知的財産の保護」というタイトルについても、近年は国際競争力強化のためには、知的財産やデータを道具として「活用」して差別化することにより競争力を確保することが主流となっている。また、知的財産に加えて、「ノウハウやデータ」の活用も重要で、タイトルは「知的財産・データの保護と活用の促進」にしてはどうか。
- ・4章では新型コロナウイルス感染症で影響を受けている方々への支援策が講じられていることから、支援を受けた生産者数や支援策が利用された件数（金額）等も記載した方が良いのではないか。

（浅井委員）

- ・構成については、非常に良い構成になっていると思う。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応はトピックスに盛り込んだ方が良いのではないか。
- ・白書は国会に提出するためのレポートとしては良いのかもしれないが、多くの国民に読んでもらうためには形式を検討した方が良いのではないか。従来の農水省 HP から PDF でダウンロードするのが良いのか。今後の発信の仕方を検討すべき。
- ・農業者の立場から最も関心があるのは、みどりの食料システム戦略。目的と具体的なアクションに期待しており、強固な生産基盤、意欲ある農業者、賢明な消費者の行動計画の3点がそろえば、常に変化する社会、農業構造においても柔軟に前向きに対応できることを記載してもらいたい。
- ・農地の生産性については優良農地の確保と農地集積、農業 DX は社会全体での取組が必要。詳細に記載していただきたい。

(高槻委員)

- ・輸出促進について、世界における日本の位置付けを記載すると分かりやすいのではないか。例えば、日本は農業産出額で言うと世界第 10 位だが、農産物の輸出額は世界第 43 位。輸出のポテンシャルはあるので重要なテーマといえる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は負の影響ばかりではなく、ベンチャーや新しい流通などの動きを促進するという意見もある。3 章の農業関係人口の拡大のきっかけにもなっており、掘り下げた方が良いのではないか。マクロをとらえつつ、ミクロの事例を書くとうわかりやすくなるのではないか。

(三輪委員)

- ・白書の構成、トピックスについて、大枠では違和感がない。
- ・白書は、以前は記録媒体という観点が強かったが、最近は国民とのコミュニケーションツールの色が強くなってきており存在意義が高まってきている。
- ・以前、URL や QR コードについて提案させていただいたが、しっかりと実行いただいた。今後も国民にメッセージを伝える良いツールに育てていくべき。
- ・トピックスの農業 DX について、構成案には行政手続のことが記載しているが、農業 DX はもっと範疇が広い。現場での取組、実務的なものも広がっており、スマート農業もその 1 つである。手続だけ書くのは農業 DX を矮小化するおそれがある。生産、販売、生活にわくわく感のあることが伝わるトピックスにしてもらいたい。
- ・政策評価結果について、企画部会で報告し、意見を聞くのは優れた方法だと思う。また、良いものは良いとして、もっと PR しても良いのではないか。しっかりと政策を行った結果、KPI が改善されたのであれば、EBPM として大きな意義がある。
- ・KPI が達成されたら日本の農業がどうよくなるのか、関連性が分かるようにすれば、国民の理解が深まるのではないか。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響があった指標については、目標値を現状のままで評価を行うのか、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて目標値を変更するのは、EBPM の観点から重要である。

(川上委員)

- ・日本の中でも地域により作物価格や資材価格等に差が見られる。みどりの食料システム戦略の展開で比較・分析を行っていく中では、地域の実情に応じた分析をお願いしたい。

- ・農業 DX について、いろいろな情報をどう使うかというところに農業者の利便性がある。生産現場からは、国や県の補助金の審査を早急に行っていただきたいという要望が多くある。農業 DX により申請手続を迅速に処理できるようになると良いと思う。
- ・食品産業では原材料が高騰した場合に価格に転嫁することができるが、農業の現場ではそれが非常に難しい。みどりの食料システム戦略で環境政策を推進というが、農業者はコストがかかって再生産ができなくなるおそれ。農業では多くの生産資材を海外から輸入しており為替の影響が大きいので、政策評価の資料3で、為替の影響を排除した場合、資材費の低減の取組は一定程度進展と分析されているが、農業者からすると、現実としてそのような評価でよいのかと感じる。
- ・再生産が可能な食品を消費者の方々に選択してもらうためには、生産原価がどれぐらいにかかっているか周知する必要があると思う。国として周知してくれれば持続可能となる。

(井上委員)

- ・トピックスについて横串を刺して相関を見られるようになれば良いかと思う。例えば、ニッポンフードシフトについて、「新たな国民運動の開始」という内容であれば、トピックスの個々の事業が、他の事業と関連し合いながら課題を解決していくという見せ方の方が分かりやすいのではないかと感じた。みどりの食料システム戦略、多様な農業への関わりともつながっていく。
- ・行政と生産者だけではなく、生産者は消費者がいなければ、商売が成り立たないわけで、消費者に対して上手く伝えていくことが重要。

(佐藤委員)

- ・非常に良い内容になっており、それぞれの内容について、このまま作業を続けてもらえればと思う。
- ・特集の「変化する農業構造」については、農業者として知りたい部分。今後も継続して変化を見せていただきたい。
- ・農業女子プロジェクトで知り合った農業者と、農業白書を知っているかという話になったがほぼ知らなかった。作った白書を読む人がどう生かしていくかが大事であり、今年は農業白書を意識して農業経営を行うという話になった。農業者としてデータは知りたい部分であり、バイブル的になるのではないかと感じた。
- ・農業の人手不足について、新規参入、新規就農は難しく、日本の農業を支えているのは「農家の嫁」だと思う。これは自信を持って言えることなので、農業に女性がどの

ように関わっているのかを詳細に記載していただければと思う。

(平野情報分析室長)

- ・林委員から、特集では1章から4章まで横串として、農地の話、輸入原材料等についても挿入できないかという御意見をいただいた。データがとれるかどうか確認して可能なものについては記載させていただきたい。また、第1章のタイトルについては、基本計画に沿ったタイトルとしているため現状のままで維持させていただきたい。
- ・浅井委員から新型コロナウイルス感染症への対応についてトピックスに記載した方がよいとの御意見をいただいた点については、今後検討してまいりたい。また、発信方法に関する御指摘については、広報活動として一昨年からターゲット別ページを作成しているが、令和3年度白書の広報については、作成を進めるのと併せて検討してまいりたい。
- ・井上委員御指摘の特集編の横串については、分かりやすさの観点から検討したい。
- ・佐藤委員からの、特集の「変化する農業構造」に関するデータは、農業者として知りたいものであり、バイブルとして活用したいという発言は激励として受け止めたい。来年以降の継続については、審議会で議論いただくものと認識している。

(山口研究総務官)

- ・林委員から、ブロックチェーンを活用したデータ活用や政府のデータ連携基盤等について、三輪委員からも生産の現場のみならず流通の段階でもデータ連携について記載をお願いしたいと御指摘いただいた。近年はスマート農業の部分で、農業のデータ連携基盤やフードチェーンの部分のデータ連携を記載させていただいているため、今年どのように書くことができるか検討させていただきたい。
- ・林委員からデータ保護について御意見をいただいた点については、(一昨年の白書で)スマート農業の関係でデータ契約に関するガイドライン等を記載させていただいており、今年何か書けるか検討したい。

(渡邊輸出・国際局長)

- ・林委員から輸出と知的財産へのコメントをいただいた。輸出については昨年のトピックスで輸出拡大実行戦略について記述している。令和3年度は実行戦略を改訂し、輸出促進法の改正等も打ち出しているため、そこから一連の流れとして記載していきたい。知的財産については、今年4月に改正種苗法が施行され、令和3年度から育成者の許可なしに登録品種の種苗が海外に持ち出せなくなっており、令和4年度から登録

品種の自家増殖を許可なく行うことも禁止も対象となる。また、GI 登録も進めている。御意見も踏まえて、どのような記載にするかしっかり検討していきたい。

- ・高槻委員の輸出への御意見もごもっともで、日本は農業総産出額の2%程度しか輸出していない。一方アメリカでは1割、イタリア・フランスでは2割以上輸出している。日本でも1割にあたる5兆円に向けて戦略を打ち出しているところ。記載については検討したい。

(窪山参事官 (デジタル戦略))

- ・農業DX構想に基づくプロジェクトは、現場系のものとしてスマート農業をはじめ、DXを進める基盤となるeMAFF、eMAFF地図のプロジェクトも進めている。令和3年度の実績としてどのようなものをトピックスに記載するか今後検討していきたい。

(平形農産局長)

- ・川上委員、山波委員から御指摘いただいた分野9指標⑩「担い手の米の生産コストにおける生産資材費と労働費」について、平成26年度に比べて令和2年度は大きく円安となったが、合理化により資材費の上昇を抑えたところ。この資料だけでは伝わらず、表記の工夫が必要だと考えている。
- ・資材費の低減については、為替や原油高騰の影響を受ける中で、生産現場において再生産が可能となるよう、適正な価格の転嫁の必要性を関係者へ周知しながら全体としては進めていかなければならないと考えている。

(秋葉環境バイオマス政策課長)

- ・浅井委員、山波委員等から御意見があったが、再生産できないと持続できないのはその通り、一方、このままでは何十年先に農業を続けることができなくなるとの危機感から長期の戦略を描いたもの。当面10年程度は実装可能な技術を横展開しつつ、研究開発も行っていく。また、環境に配慮して生産したものを消費者の方に対価を払って買っていただくということが非常に重要。農家の皆さんが行っている環境負荷低減活動の見える化を行い、商品として消費者が手に取っていただく事ができるような形の取組を進めていきたい。

(大橋部会長)

- ・全ての出席委員から御発言いただき感謝。私から委員として、若干まとめの意味も込めて発言したい。
- ・議論を聞いて、白書は動向を書くものではあるが、メッセージを出すことも必要ではないかと感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症で誰しもが影響を受けているため、周囲がどうなっているということも含めて全体像を知りたいというのは当然の関心。
- ・委員の皆様から頂いた意見は、3本の柱に整理できる。堀切議員から頂いた資材も含めた食料安全保障の話、林委員等から頂いた農業DXの話、山波委員ほか、多くの委員から言及があったみどりの食料システム戦略の話。
- ・KPIと政策の目的がずれているものがある。ロジックモデルの中で考えていくという見せ方にした方が良いのではないか。その背景として、政策立案は透明化した方が良く、国民に見えるような形にすることで、思い切った施策ができるようになるということだと思う。

以上